

図 2 ※ 雌阿寒岳 最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月～2008 年 1 月) ↑印は噴火
 (1996 年、1998 年 : ポンマチネシリ火口からの噴火、2006 年 : 赤沼火口からの噴火)
 ・ ポンマチネシリ 96-1 火口の熱活動、噴煙活動は 2000 年以降徐々に低下し、その傾向は 2003 年以降明瞭になっています。2006 年 3 月の小噴火後もこの状況に変化は見られていません。
 ・ 赤沼 06 火口群の噴煙活動は、2006 年 3 月の小噴火後は活発な状況でしたが、その後活動は次第に低下し、最近では静穏な状況で推移しています。
 ・ 地震活動は、2006 年 3 月の小噴火の前後は活発な状態で推移しました。その後は、2007 年 1 月～3 月に一時的に地震が増加したほかは低調な状態で推移していましたが、2008 年 1 月 9 日から 10 日に地震が多発しました。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

2) 2008 年 1 月の地震回数は暫定値です。後日変更されることがあります。

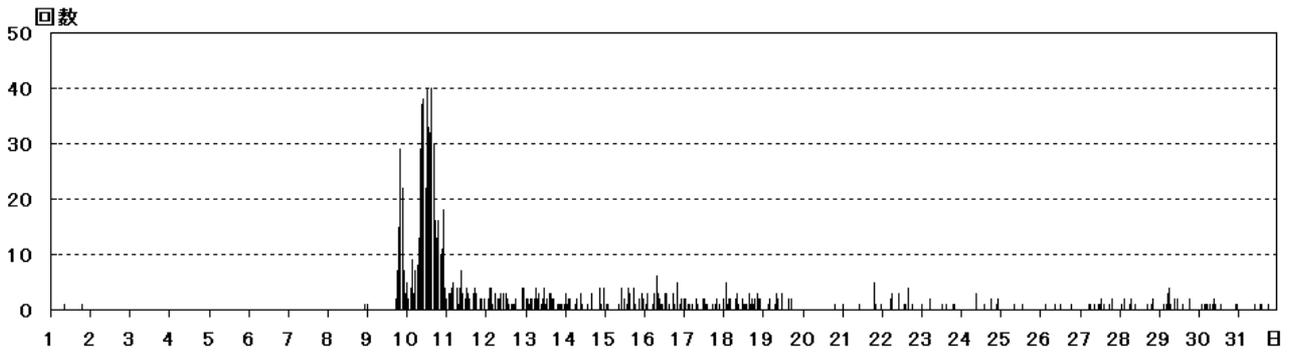


図3 雌阿寒岳 2008年1月の火山性地震時別回数²⁾

・9日夕方から10日にかけて火山性地震が多発しました。その後減少しましたが、やや多い状態で推移しています。

表1 雌阿寒岳 地震・微動の月回数²⁾ (図1のB点)

2007～2008年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
地震回数	228	213	67	32	28	32	18	32	32	23	26	956
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

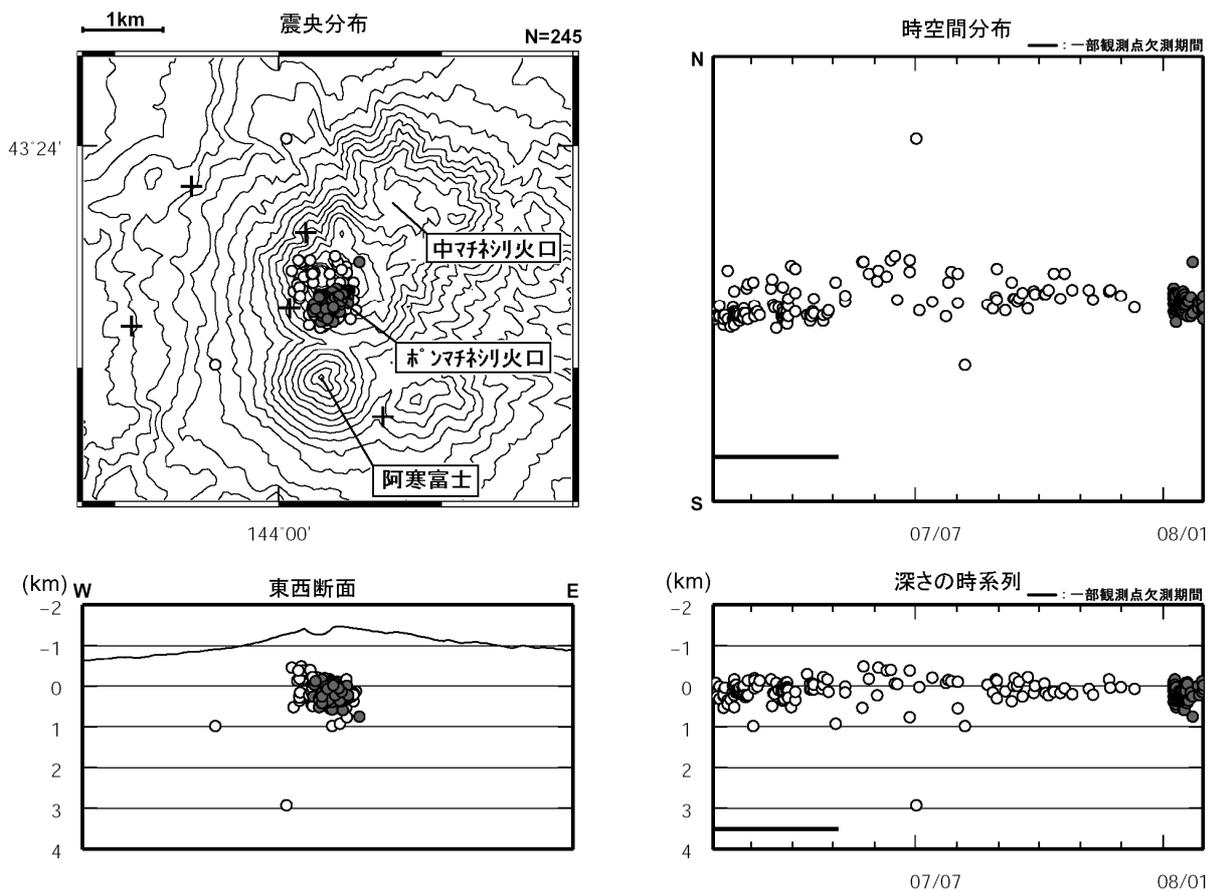


図4 雌阿寒岳 震源分布図(2007年2月～2008年1月、+は地震観測点)

2007年1月3日～5月5日にかけて一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

●印は今期間(2008年1月)の震源

○印は前期間までの11ヶ月間(2007年2月～2007年12月)の震源

・前期間までの震源の多くは、ポンマチネシリ火口直下の浅い所(山頂から深さ1～3km付近)に分布しています。今期間の震源もこの領域内に分布しています。

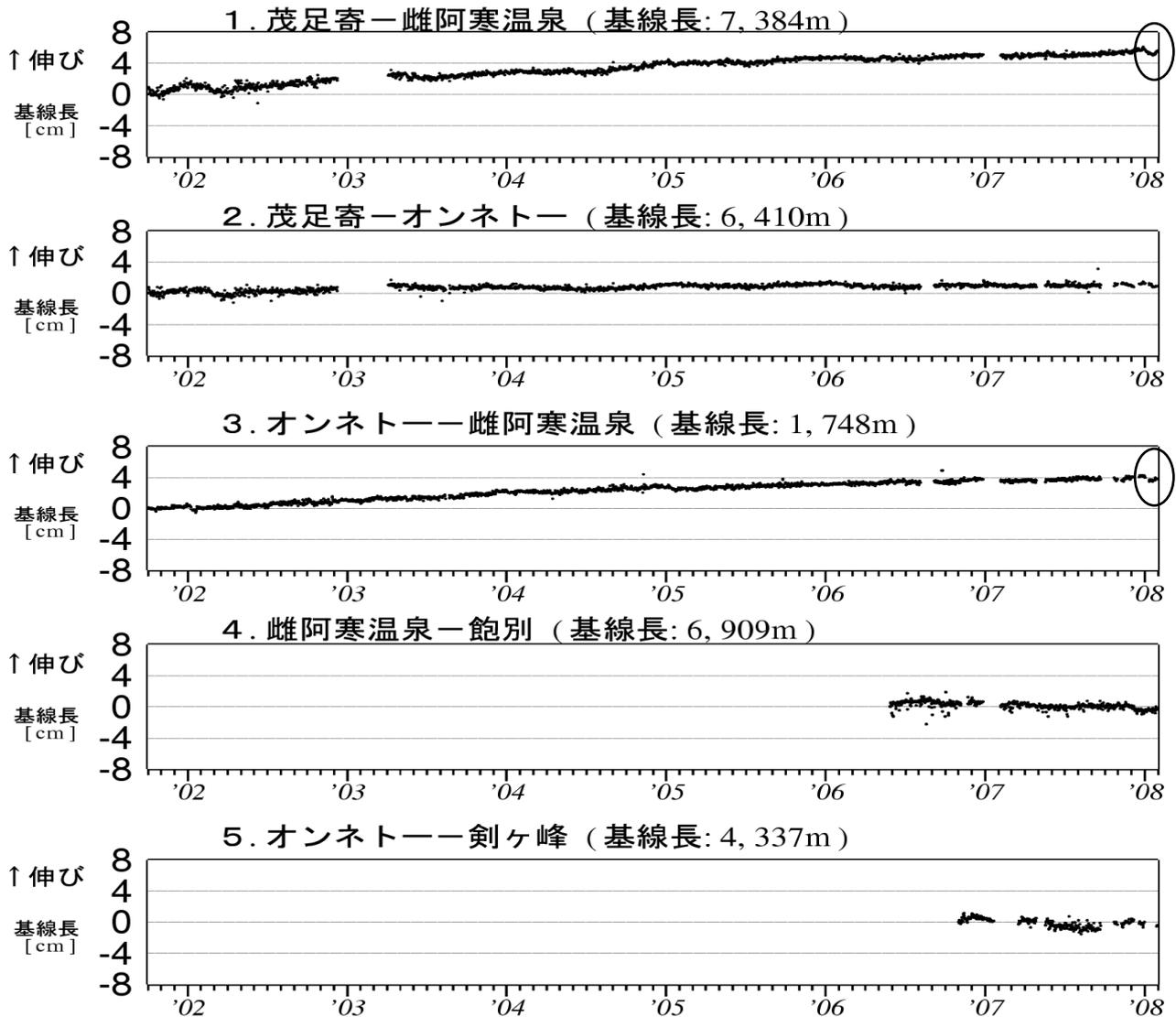


図5 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 10 月～2008 年 1 月)
 グラフの空白部分は欠測、図中○で示した変動は、火山活動とは無関係な雌阿寒温泉
 観測点の局所的な変動と考えられます。
 図5の1～5は、図6のGPS基線①～⑤に対応しています。

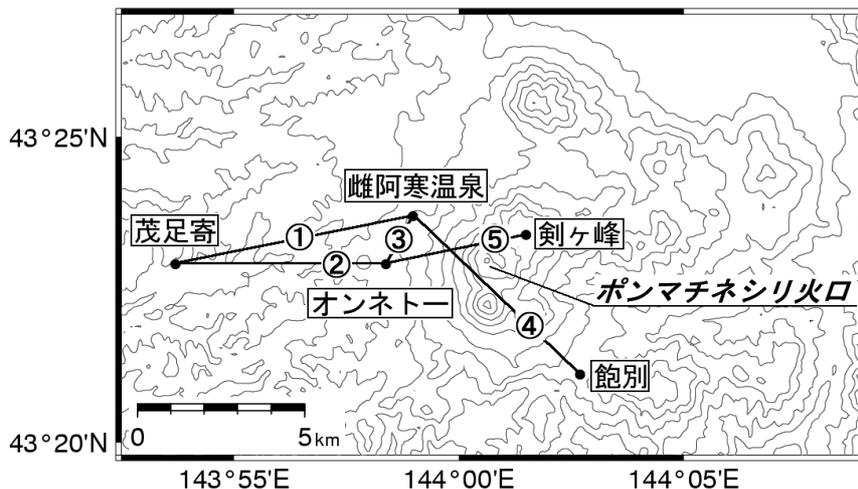


図6 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図